

## 海外派遣留学プログラム 留学中報告書

所属：Faculty of Humanities and Philosophy

学年：3 年

留学先大学：Sapienza University of Rome

現在の学期：Fall semester

時間割：

曜日	履修科目名・時間等
月	16:00～18:00 Ancient Mesopotamian Law
火	10:00～12:00 International Relations Nationalisms and Minorities 12:00～14:00 Ancient Mesopotamian Law 14:00～16:00 Social Anthropology
水	16:00～18:00 International Relations Nationalisms and Minorities
木	10:00～12:00 Performing Arts and Politics 18:00～20:00 Social Anthropology
金	16:00～18:00 Performing Arts and Politics
土・日	

### 履修科目や近況について

渡航前に履修科目を選択するにあたり、大学の公式ホームページで公開されていた昨年の資料を参考にしましたが、開講される時間やキャンパス、延いては開講される授業そのものに大きな変更が相次いで生じたため、当初の予定とかなりズレが生じました。どうやらキャンパスの改修工事等の影響で、薬学部を含む一部の理系学部で教室が不足しているらしく、その余波を受けたことも要因の1つと思われます。

ローマ大学ラ・サピエンツァに所属している留学生は、自身の所属する学部・学年を問わず、学内で開講されているほぼ全ての授業を履修することが出来ます。多岐に渡る分野の授業が開講されており、英語で行われるものも多く存在するため、自身の専攻を軸とした学際的な学びを享受できる点が魅力的です。基本的に同一の授業が週2回開講され、期末試験の多くは口頭試問で行われます。口頭試問という形式は我々日本人にとってはあまり馴染みがなく、正直なところ私も少し不安を抱いています。ただし、成績が合格基準に達しなかったり、納得のいくものでなかったときは、前期の場合2026年の1月から2月に定められた試験期間内であれば何度も挑戦することが可能なようです。

様々な国からの学生達と共に授業を受けていますが、日本の学生と比べ非常に活発的で

あると感じます。授業では学生が積極的に質問したり、自身の意見を述べる場面が多く見られ、教授と学生の間で常にコミュニケーションを取りながら進行していく様が非常に印象的です。また彼らは近年の世界情勢に対しても非常に敏感です。最近ではイタリア政府がパレスチナの国家承認を見送ったことを皮切りにデモ活動が活発化しており、大学の構内でもパレスチナの自由を訴える学生を多く見かけます。私が所属する学部は10月1日に新学期が始まりましたが、翌10月2日には学生のデモ隊によって校舎が封鎖され、授業が中止に追い込まれる事態に発展しました。現代の日本ではまず見られないような、学生達が各々の信念に基づき行動を起こす光景は、今でも強烈に脳裏に焼き付いています。